

AYLA HOUKAGO PARTNER

今日のこどもを わかって

～もう一度考えたいアセスメント～



はじめに



自閉症をはじめとした発達障害を有する方の中には、家庭や学校、施設または地域社会において様々な問題行動・不適切行動を示す人も少なくありません。それには、発達障害それぞれの障害特性が背景にあり、要因となっている場合もありますが、必ずしも“発達障害だから問題行動を起こす”というものでもなく、あくまでも環境との相互作用によって生じるものです。療育の目的は、最終的にその子が自分で社会的に好ましい行動を選択していけるように支援をしていくことであり、その子自身を矯正するものではないと私たちは考えています。

はじめに



その子が生まれ持った個の特性を深く理解することによって
その子がごく自然な形で好ましい行動が選択できるように導くことや、その
行動を汎化するために大人が意図的に関わり、設定していくことが、療育と
いう場所なのだと思います。アセスメントは、その為に必要不可欠な支援者
としての視点です。私たちは、アセスメントこそが支援の根幹だと考えてい
ます。お子様の元々持つ力を最大限発揮できる環境を作るために、アセスメ
ントを学びましょう。



アセスメントとは

アセスメントとは何か？



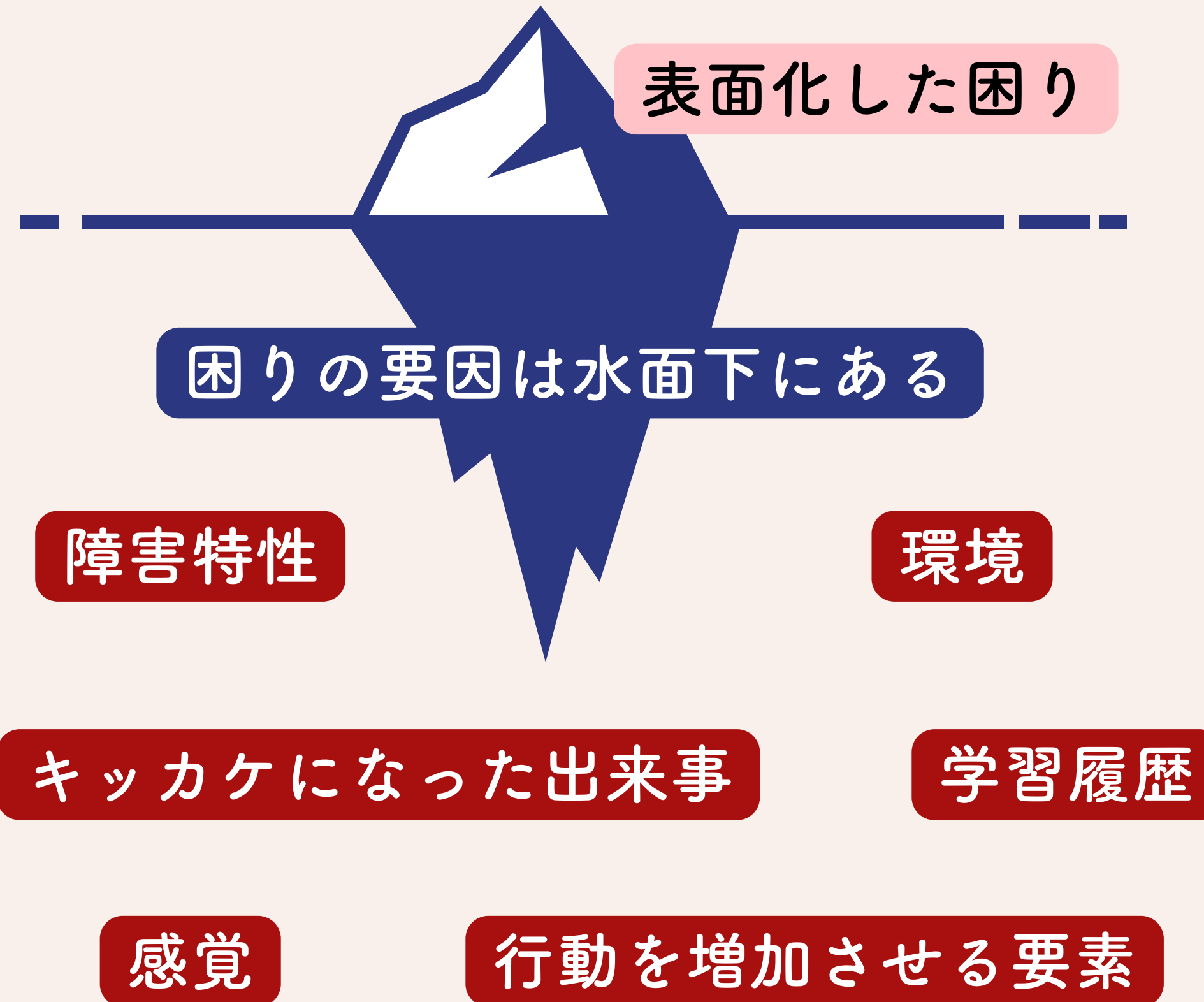
アセスメント（ASSESSMENT）：

「客観的評価・査定」の意味

= 対象への適切な介入を行うために、情報を収集し、
その情報の持つ意味について分析すること



—つまり、氷山の下を深ぼるということ—

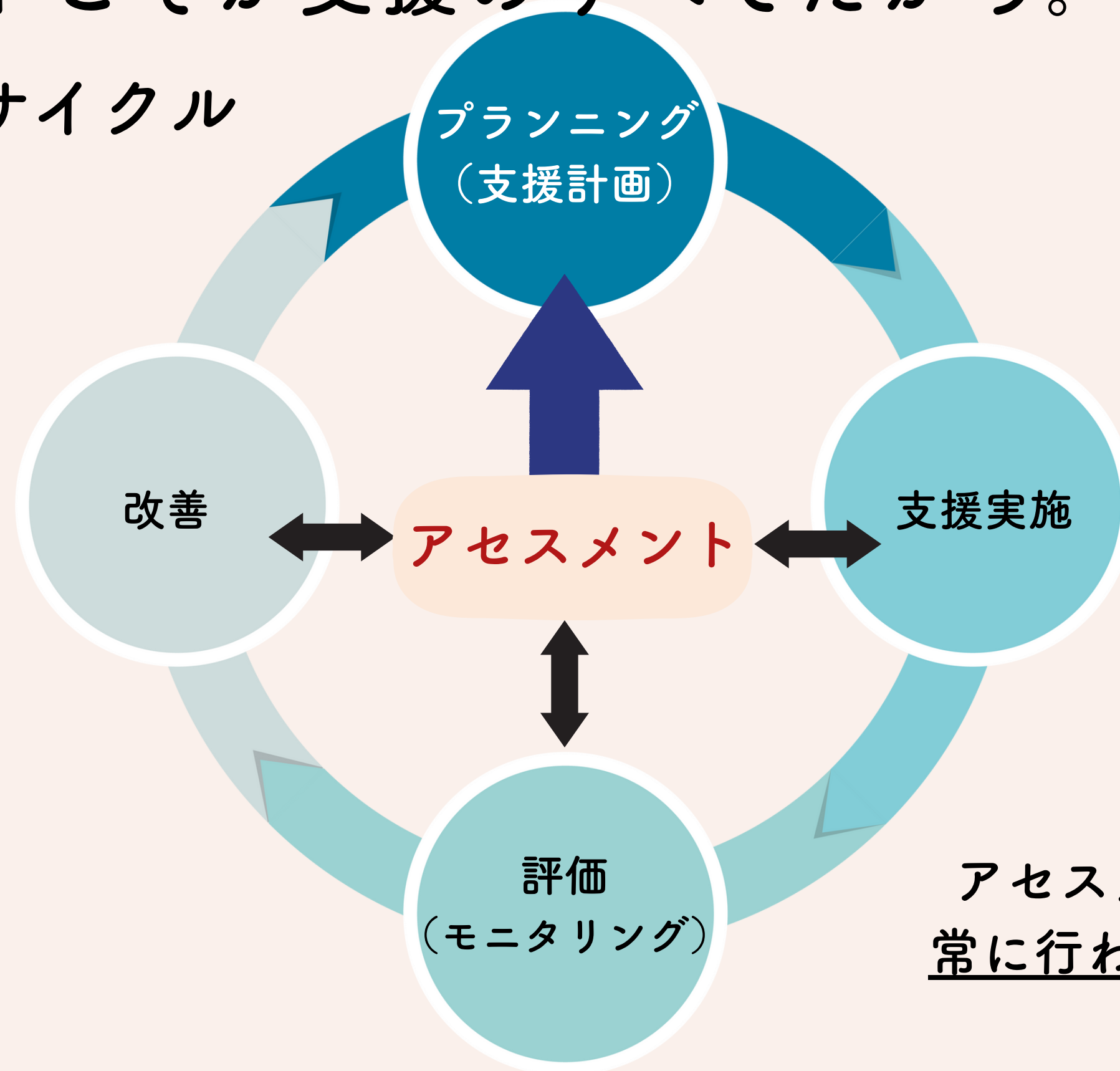


本人にかかわる様々な情報を集め、「なぜその行動が現れるのか」を探ること

なぜアセスメントが重要？

= アセスメントこそが支援のすべてだから。

支援のサイクル



アセスメントは支援において
常に行われるべきものである。



アセスメントは、お子様を「わかる」力

個と環境から「その子」を理解し、「できた」につなげる専門性

お友達を
叩いてしまう

＜氷山の表面だけ捉えた支援＞

- ・ お友達を叩いた時に徹底的に叱ったり、ルールで支配することで他害をなくそうとする
- ・ 他害のある子を受け入れないという選択をする

＜深くアセスメントされた支援＞

「感覚の過敏さから急に声をかけられたり触られたりすることが苦手、かつ言葉がとっさに出てこない」という分析を踏まえ、「今の状況で起きうることとその対応策」を事前に伝えておく

「叩きたい」と思って
やっているわけではないとしたら

お子様が安心して
「できた」を重ね
人とのつながりを楽しめるのは
どちらの支援でしょうか？



アセスメントの種類

アセスメントの種類

フォーマル
アセスメント

定量的
客観的
標準化されたもの



インフォーマル
アセスメント

面談
行動観察
成果物



インフォーマルアセスメント

生育歴

発達段階

心理的課題

感覚特性

興味・関心

障害特性

周囲の環境

ニーズ



面接、行動観察などからこれらの情報を継続的に集めていきます

フォーマルアセスメント

尺度が標準化されており信頼性、妥当性があるもの

同じ道具や質問をたくさんの人に実施してみても標準化されていることや客観的であることが特徴です。 又、検査によっては、その個人の得手・不得手をプロフィール化でき支援方法を明確化しやすいという良さがあります。そして、何より検査者が投げかけた問いに対するリアクションから、その刺激がどのように受け止められたのか、困った時にはどのように反応するのかなどが確かめられます。反面、非日常的な場面で評価されるため、普段より能力が低く表れたり、お子様への負担も大きい事がネックです。

WISC
(ウィクスラー式
知能検査)

遠城寺式
乳幼児分析的
発達検査法

田中ビネー
知能検査

SM社会生活
能力検査

療育施設でよく目にする検査

WISC
(ウィクスラー式
知能検査)

認知能力・知能の発達
情報の出力・入力

田中ビネー
知能検査

精神年齢

遠城寺式
乳幼児分析的
発達検査法

言語・社会性・運動の
発達段階を評価

SM社会生活
能力検査

社会生活における
適応行動の評価

その他 K-ABC (日本版K-ABC II) : 得意な認知処理様式 (継次処理/同時処理)

Vineland™-II適応行動尺度 : 個人的、または社会的充足に必要な日常活動の能力

SP感覚プロフィール : 感覚処理、調整、行動や情動反応

フォーマルアセスメントの必要性

放課後等デイサービスガイドラインより

子どもと保護者及びその置かれている環境を理解するためには、
子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を、
標準化されたアセスメントツールを使用する等により確認する。
(例えば「Vineland-II 適応行動評価尺度」の日本版)

→各指導員の主観だけでなく、客観的な指標を用いて確認することにより、
お子様をまなざす視点を統一化することにつなげるため。



見学時のアセスメント

見学対応の際のアセスメント

保護者への聞き取りとお子様の観察によって実施していきます

①基本情報

学校（園）名、普通級or支援級や、障害児加配の有無
受給者証の有無、診断の有無、療育手帳の有無（と等級）
身辺自立の状況、アレルギーやけいれん等の有無
※家族構成（私は最後の方に聴きます）

②療育に繋がった経緯

「何歳で、誰が、何をキッカケで診断に至ったか」
「親御さん自身は育てにくさを感じていたか」等

③特性に関する一番の心配事

5領域のどの部分にどのような課題があるか等



こんな風に聴いています

療育に繋がった経緯を伺ってもよろしいですか？

これまでどんな療育を受けてきましたか？

診断は〇〇なのですね。療育手帳はありますか？

田中ビネーやウィスクは受けたことはありますか？

どんな結果だったか覚えている範囲で教えてください。

今一番困っていることや「今後不安だな」と思うことは何ですか？



構造化できる質問

身辺自立

運動

感覚

人間関係

ことばの発達

問題行動

上記についてはある程度質問内容を構造化できるため、見学時の質問として必ず聴取しても良いと思いますが、尋問のようになりやすいため、聞き方には注意が必要です。

「ことばの遅れがあります」

① どのような遅れか

無発語、定型発達に対して遅れがある、話はあるが語彙が少ない
慣用句や心情語彙の困難、対人文脈の困難、構音障害等

② 具体的にどのような話し方をするか

「（無発語の場合）アイコンタクトや指差しはありますか？」

「三語文など、どのくらいお話しますか？」

「こうしたい、これは嫌だ、などはどうやって伝えますか？」

「もどかしい気持ちに対し、自傷等が出ることはありますか？」

「こちらからの指示は理解していると感じますか？」

「普段使っているコミュニケーションの方法はありますか？」等



③ 生育歴の聞き取り

出生時の週数、首すわり等の身体的発達の遅れの有無、摂食嚥下機能
食形態の段階、知的障害・自閉症の診断有無等

言語・コミュニケーション

5領域20項目の調査項目より

2項関係(人対人)	①目が合い、微笑むことや、嬉しそうな表情をみせる	②訴えている（要求する）時は目が合う	③あまり目が合わない / 合っても持続しない	④ほとんど目が合わない
表出(意思の表出)	①言葉を使って伝えることができる	②身振りで伝えることができる	③泣いたり怒ったりして伝える	④意思表示が難しい
読み書き	①支援が不要	②支援が必要な場合がある	③常に支援が必要	

「行動面で問題があります」①

①他害、自傷行為がある場合

どういうときに出るか、どういう行動があるか、どうやって治まるか

②飛び出し等、危険な行動がある場合

対象物（目的）があって飛び出してしまいうのか

感覚探求や自己刺激行動か、注目要求等は考えられるか

危険回避について事前に告知すれば比較的守れるか

特にどんな場面で飛び出しがあるか（電車や車が好き等）

③離席等がある場合

着席姿勢の困難さとして固有受容覚や前庭感覚の鈍さはあるか

脳の覚醒（集中）の困難さと感じる要素はあるか

ADHDの報酬系機能の弱さからくる離席の可能性はあるか

指示理解の困難さによって離席している可能性はあるか等



認知・行動①

5領域20項目の調査項目より

危険回避行動	①自発的に危険を回避することができる	②声かけ等があれば危機を回避することができる	③危険を回避するためには、支援者の介入が必要である	
注意力	①集中して取り組むことができる	②部分的に集中して取り組むことができる	③集中して取り組むことが難しい	
見通し(予測理解)	①見通しを立てて行動することができる	②声かけがあれば見通しを立てて行動することができる	③視覚的な情報があれば行動することができる	④その他の工夫が必要

「行動面で問題があります」②

④ 予定変更に対応できません

どのくらい事前告知をしているか、スケジュールボード等を使っているか、視覚支援はしているか、具体的に予定変更に対してどのような行動を取るか

⑤ 切り替えができません

中断をすることが難しい、おしまいにすることが難しい
行動に移すことが難しい、気分の浮き沈みに対しての立ち直りが難しい
癇癢がある、等の具体的なエピソードと普段の対処法等

自閉症のお子さんは特に想像的活動の困難や同一性の保持等から、今、やっている事、やりたい事の中断が難しい事があります。また「おしまい」の概念が分かっていないと、行動に移す（始める）事への困難にも繋がります。



認知・行動②

5領域20項目の調査項目より

見通し(急な変化 対応)	①急な予定変更で も問題ない	②声かけがあれば 対応できる	③視覚的な手掛か りがあれば対応で きる	④その他の工夫や サポートが必要
その他	①乱暴な言動はほ とんどみられない	②乱暴な言動がみ られるが、対処方 法がある	③乱暴な言動がみ られ、対処方法も 特にならない	

「対人関係等で課題があります」

① 人との関わりへの困難

興味を持っていないよう、同年齢と遊べない、友達とよく揉めてくる
周りから揶揄われたり嫌な事をしてくる子がいる、他害がある等

② 遊びに対しての心配事がある

一人で遊んでいる、同年齢と遊べない、遊びが限定的で繰り返している
遊びに誘っても乗ってこない、特定の子としか遊べない
複数名の遊びが難しい、ルールのある遊びが難しい、勝ち負けの受容

③ 集団への参加

一斉指示が難しい（語彙、注意力、感覚特性等はどうか）
大人数が苦手（感覚特性、情緒面等）、集団行動が苦手（指示理解、感覚特性、情緒面等）

「どういうときならできる？」という確認も大切！

人間関係・社会性

5領域20項目の調査項目より

人との関わり（他者への関心興味）	①自分から働きかけたり、相手からの働きかけに反応する	②ごく限られた人であれば反応する	③自分から働きかけることはほとんどないが、相手からの働きかけには反応することもある	④過剰に反応する、または全く反応しない
遊びや活動（トラブル頻度）	①ほとんどないか、あっても自分たちで解決できる	②トラブルがあっても、大人の支援があれば解決できる	③支援があっても解決できる場面とできない場面がある	④トラブルが頻繁に起き、解決することも難しい
集団への参加（集団参加状況）	①指示やルールを理解して最初から最後まで参加できる	②興味がある内容であれば部分的に参加できる	③支援があればその場にはいられる	④参加することが難しい

「提案」する為に
必要な情報を
聞き取ることが
ポイント



「できない」に
捉われ過ぎず
「できる」にも
目を向ける！



やっぱり欠かせない発達心理学

保護者さんや関係機関さんから聞くお悩みは「それって発達段階的にいうと正常（考えられる）なことでは」、「この子の障害特性から見ると自然なことでは」と思うことがあります。その子の発達、特性から見た評価は私たち支援者にできることのひとつですが、その際も欠かせないのが納得性です。根拠のない「大丈夫」や「様子見」では保護者の方には伝わらないのです。なぜ「大丈夫」なのか、なぜ「様子を見たい」のか、少なくとも私たちは、エビデンスベースで、説明できるようにならなくてはなりません。



利用後のアセスメント

仮説に対する検証



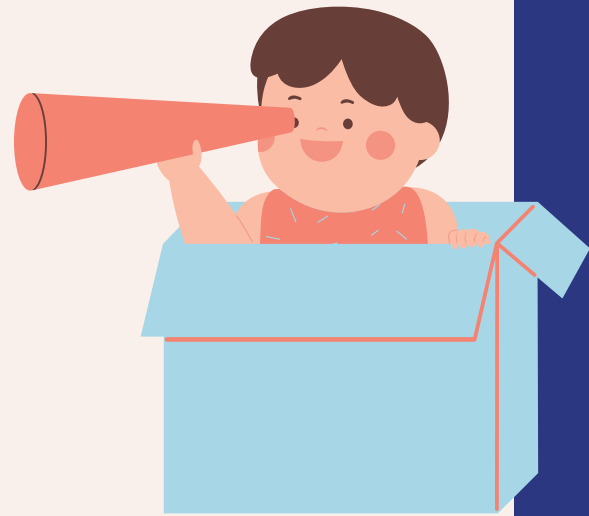
問題行動が出るのは、自分の思いを伝えられなかった時なのではないか？

離席行動は、固有受容覚と前庭感覚の鈍さからきているのではないか？



最初の個別支援計画は、初回面談までの聞き取りや相談支援専門員さんが立てるサービス利用計画の内容、検査の内容等を総合的に踏まえて児童発達支援管理責任者がまとめあげ、他職種の意見も取り入れ作成していきます。実際、利用が始まってからはそれらの「見立て」や「仮説」が合っていたか、そして仮説に対して考えた支援方法やプログラムの難度や効果等について実際に実行しながら検証していきます。

子どもの行動の目的



獲得



逃避

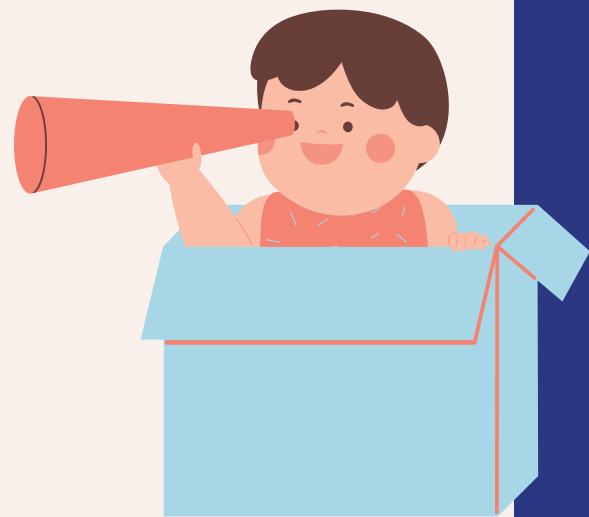


注目



自己刺激

子どもの行動の目的



何かが
欲しい



何かから
逃げたい



注目を
得たい



感覚の快

行動の機能分析表の活用

	場面	先行条件	行動	結果
4/5	室内に入室後すぐ			
4/17	活動開始の前			
4/22	帰りの会の時			

行動の機能分析では、子どもの問題行動に対してその行動の目的（機能）の仮説を立てるために一定期間記録を行っていきます。

誰の困りなのかを考える



本人の表出行動に
周囲が困っている



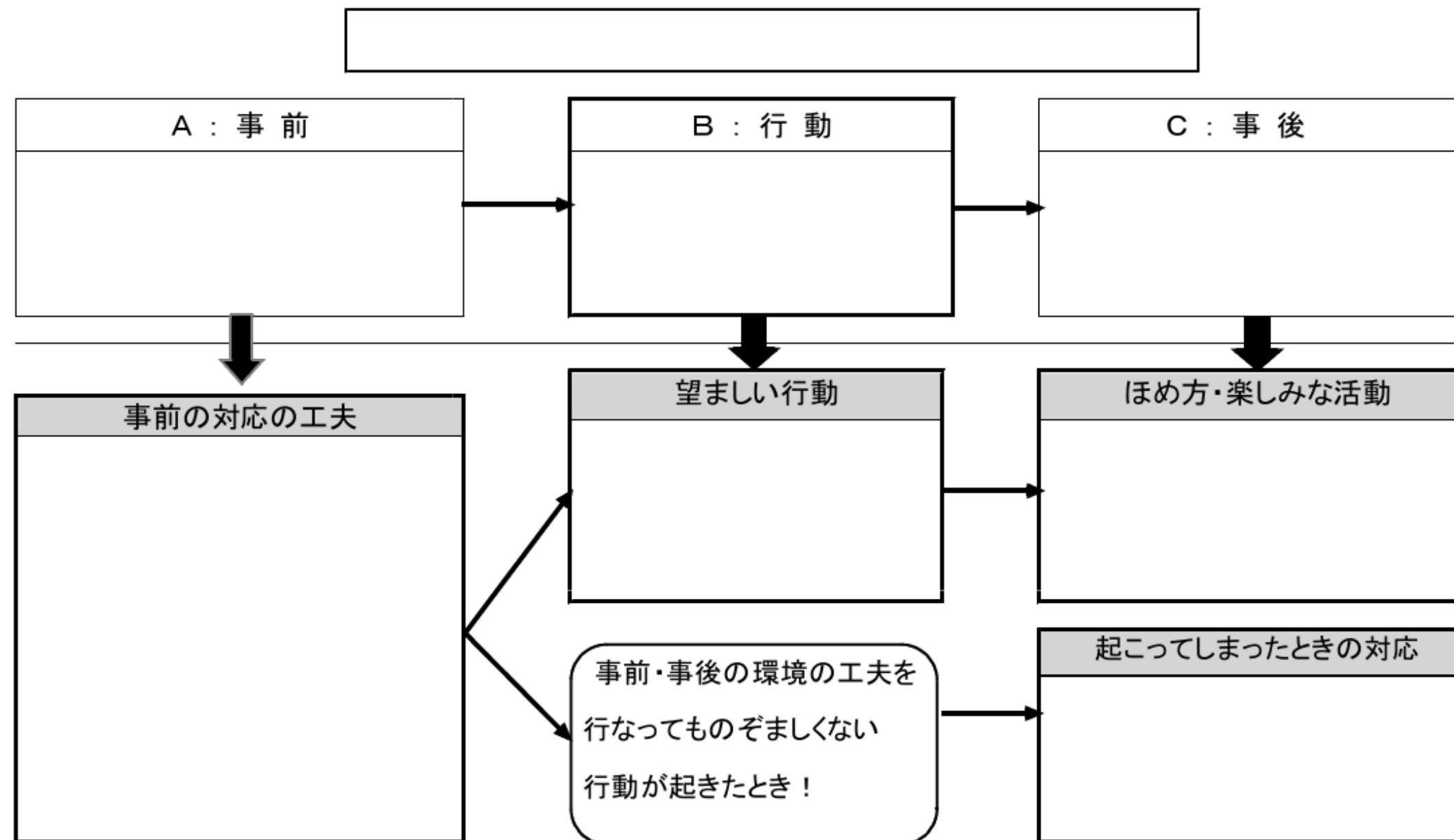
本人が不安で
困っている

本人にとっては安心するための手段かもしれないし、不安を伝える唯一の方法かもしれないが、周りにとっての困りの原因になることも。

具体的な介入行動が見えたら

支援の統一化をはかろう

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 】



そうせずには
いられなかった
その子の気持ちには
受容する



「ASDがありそう」 と思ったらASDにあった支援を試してみる

日本語版 M-CHAT-R™

1. あなたが部屋の中の離れたところにあるモノを指でさすと、お子さんはその方向を見ますか？（たとえば、あなたがオモチャや動物を指さすと、お子さんはそれを見ますか？）	はい・いいえ
2. お子さんの耳が聞こえないのではないかと心配されたことがありますか？	はい・いいえ
3. モノをなにかに見立てて遊んだり、ごっこ遊びをしますか？（たとえば、からのコップから飲むふり、電話で話すふり、または人形やぬいぐるみの動物に食べさせるといったふりをして遊びますか？）	はい・いいえ
4. 何かをよじ登ることが好きですか？（例えば、家具、公園の遊具、階段など）	はい・いいえ
5. 目の近くで指を動かす <u>変わった</u> くせがありますか？（たとえば、目の近くで指をひらひら動かすことがありますか？）	はい・いいえ
6. ほしいモノを取って欲しいとき、指をさして要求しますか？（たとえば、手の届かないところにあるおやつやオモチャを指さすなど）	はい・いいえ
7. 何かに興味を持ったとき、指をさしてあなたに伝えようとしていますか？（たとえば、空を飛んでいる飛行機や道路を走っている大きなトラックを指さすなど）	はい・いいえ
8. 他の子どもに興味がありますか？（たとえば、他の子どもを見たり、笑いかけたり、あるいは近づいたりということはありますか？）	はい・いいえ
9. あなたに見てほしくて（あなたに手助けしてほしいためではなく）、見てほしいモノをあなたのところに持ってきたり、あなたに見えるように持ち上げたりして見せますか？（たと	はい・いいえ

M-CHAT
乳幼児期自閉症チェックリスト修正版

感覚面に関するアセスメント

記入法	0:まったくない 1:ごくたまにある 2:時々ある 3:頻繁にある 4:いつもある X:質問項目にあてはまらない ? :わからない
-----	--

No.	動きを感じる感覚（前庭感覚）
1	転びやすかったり、簡単にバランスを崩しやすい。
2	階段や坂を歩くときに慎重で、柱や手摺りをつかみ身を屈めるようにして歩いている。
3	足元が不安定な場所を怖がる。
4	高い所に登ったりすることを怖がる。（階段、傾斜等）
5	安全な高さからでも、飛び降りることができない。
6	危険をかえりみず、高い所へ登ったり、飛び降りたりすることがある。
7	ブランコなど揺れる遊具で大きく揺らすのを好み、繰り返し何回も行う。
8	ブランコなど揺れる遊具を怖がる。
9	滑り台など、滑る遊具を非常に好み、繰り返し何回も行う。
10	滑り台など、滑る遊具を怖がる。
11	非常に長い間、自分一人であるいは遊具に乗ってぐるぐる回転することを好む。
12	回転するものにどんなに長く乗っていても目が回らない。
13	車にすぐ酔いやすい。
14	ジェットコースターのようなスピードのある乗り物や回転する乗り物を非常に好む。
15	ジェットコースターのようなスピードのある乗り物や回転する乗り物を怖がる
16	空中に抱きかかえられたり、ほうられることが非常に好きで、繰り返し要求する。
17	空中に抱きかかえられたり、ほうられたりすることを怖がる。（高い高い、かたぐるま等）
18	逆さにぶらさがる遊びを好む。

感覚領域の分析	合計点	Green	Yellow	Red
前庭感覚		~24	25~34	35~
触覚		~30	31~46	47~
固有受容覚		~9	10~15	16~
聴覚		~9	10~18	19~
視覚		~13	14~22	23~
嗅覚		~2	3~7	8~
味覚		~5	6~10	11~
その他		~12	13~21	22~
総合点		~109	110~157	158~

JSI：日本感覚インベントリーは、発達障害児（者）の感覚情報処理の問題（感覚特性）を評価するために開発した行動質問紙です。JSI-Rはその中でも4～6歳のお子さんを対象に保護者の方が評定したデータをもとに作成され研究されてきました。このシートはダウンロードして行動の特徴/特性を捉えるために活用可能です。但し最終的には感覚統合に精通している専門家につなげるようにと推奨されています。

本人を取り巻く環境要因

地域

学校

友達



親の職場

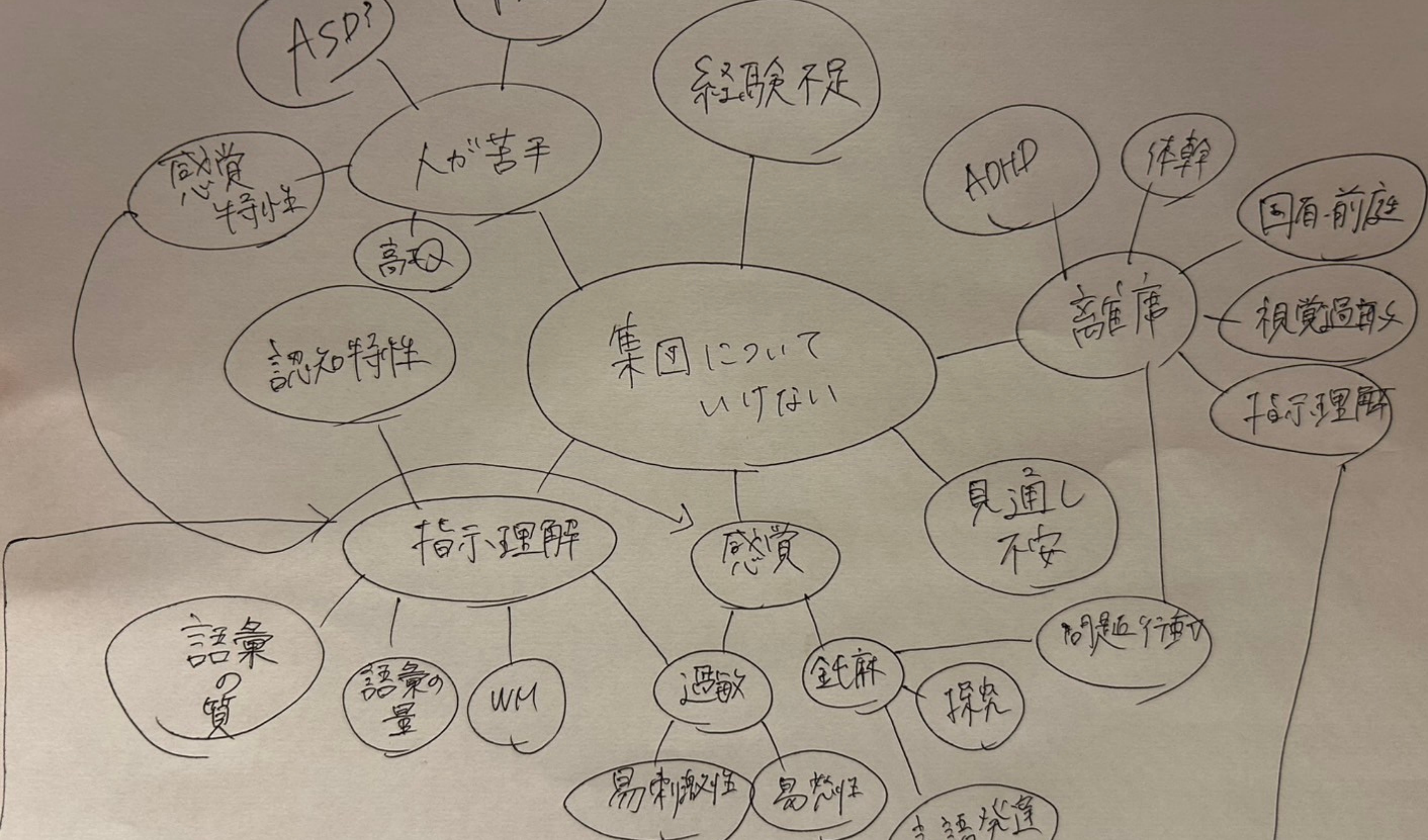
きょうだい

家族

福祉



お悩み別
こんな所をみてみよう



みんなの引き出しを整理しよう

- ① ことばの遅れ
- ② 集団参加が難しい
- ③ 同年代と遊べない
- ④ 他害がある
- ⑤ 学校に行けない状況
- ⑥ 唾遊びをする

みんなの「きになる」
を共有しよう



児童発達支援管理責任者さんに質問！



- もっと踏み込みたい
- 初回だからここまでか
- 本当はこれを知りたい
- 色々な親御さんがいる 等



新年度を迎える上で

退行現象という可能性

退行現象とは、心理学や発達心理学において用いられる用語で、**個人がストレスや心理的な負荷を感じた際に、以前の発達段階や行動パターンに戻ることを**いいます。言語や運動、日常生活、社会性などの面で、以前に習得したスキルを一時的に失ったような行動がみられ、いつもなら一人でできることも周囲に助けを求めたり、情動調整が困難な様子が現れます。この現象は通常は一時的なものですが、「赤ちゃん返り」のような状態になるため、**退行現象に対する周囲の理解と適切な対応**が求められます。

どんなときに退行は起きやすい？

新年度に向けて気持ちを追い込まれる時期や、進級直後の時期、本人にとって心身の負荷が強い状況（行事等の前）、環境の変化、家庭内の状況の変化、きょうだいの誕生等様々ですが、特に新年度については周囲の無意識のプレッシャー等からこども自身が不安を感じ、自分を守るため、より安全で安心できる状態に戻ろうとします。「赤ちゃん返り」というと悪いイメージを持つかもしれませんが、**退行現象自体は、こどもの成長過程において自然なもの**であり、成長の一部として理解し、受け止めることが大切です。

但し注意が必要！誤学習

こどもは発達途上にいる存在です。その為、自分の身を守り、安心するための行動も、大人が思いもしない方法で表してしまうことがあります。それを一時的な退行として受け止めることは当然必要ではありますが、知的・発達に特性のあるこどもたちは、それが「社会的に見て正しい行動」、「好ましい行動」ではないとしても、"こうすればいいんだ"という体験になり、結果としてよくない行動の誤学習になってしまう可能性があります。こどもの気持ちを受け止めつつ、好ましい行動を教えることはセットで行う必要があります。

困ったなあ、と思う行動でも

- ・子どもも、困っているサイン
- ・コミュニケーションの手段になっている
- ・子どもと環境のミスマッチによって苦しい
- ・間違えて学習している（誤学習、未学習、学習不足）
- ・子どもの行動には必ず目的がある

子どもから学ぶ
子どもを分かろうとする

無条件の肯定的配慮



年度の代わりには アセスメントを 見直そう



まとめ



アセスメントはその子が持つ能力を最大限発揮する「わかる」「できる」支援の追求のための方法です。

特にこの時期は環境変化による退行現象等が見られるお子様もいらっしゃいます。今までできていたことができなくなったときは、

何らかの環境変化やそれに伴う情緒の不安を抱えている可能性があります。

“いつもできているのに”と言いたくなる時も、“どうしたの”と本人の気持ちを確かめることを忘れずに関わりましょう。

今年度も沢山学びました

"今の姿"も大事だけど
"成人後の想像"も大事

誤学習にさせないこと
でも受け止めること

保護者のナラティブ大事
でも本人の意思最も大事

本人の生来的要素と
環境要因の見極め



ここで会う仲間は
みんな同じ志

